

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：応用音楽学科

資格：助教

氏名：竹原 直美

研究分野	研究内容のキーワード
音楽療法、芸術療法、特別支援教育、文化情報学	児童、表現・コミュニケーション、音声・映像、心理・生体情報、評価・分析・可視化
学位	最終学歴
博士（文化情報学）、修士（文化情報学）、学士（音楽芸術）	同志社大学大学院 文化情報学研究所 博士後期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 創造的な学習形態	2013年9月から	音楽療法の臨床場면을想定した新たな楽曲・素材・教材の創作を中心とした授業を展開し、学生個々の思考力、創造性を伸ばし、学生自ら学び合う時間を大切にしている。
2. 音楽観・音楽療法観を重視した授業	2013年4月から	マインドマップを用いた評価・学習法を取り入れ、学生自らが音楽と自己とのつながりを描き、臨床像や将来像を表現するような授業を行っている。
3. 音楽療法の研究法	2013年4月から	音楽療法の多様なニーズ・臨床現場に対応できるよう、感性的・科学的な観察視点双方からの情報収集・分析に関する学際的な知識を身に付けることができるような授業を展開している。
2 作成した教科書、教材		
1. 音楽療法の評価・分析法のための教材	2014年4月から	音楽療法場面の映像・音声情報収録・分析方法、文章分析、音響分析、心理・生体情報の分析等の臨床研究に必要な知識を身につけるための教材を作成している。
2. メディア教材	2013年4月から	音楽療法の事例学習において、再現性の高い視聴覚教材を提供し、学生・教員で議論を行いながら、共に療法的視座を深めていける教材を制作している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 「第一回理系女性人材育成セミナー」での講演	2009年6月27日	発表タイトル「音楽療法の研究者を目指して」～今後注目される臨床医工学・情報学分野の職種における研究と実践～関西五大学連携事業主催の行事において、自らの大学院での研究生活や・音楽療法の臨床・研究・教育に関する仕事の経験について語り、女性が専門的な知識を身につけることの重要性と、音楽療法研究の今後の展望について講演した。講演の休憩時間には、セミナーの意図にあった音楽演奏を企画・提供した。
2. 介護福祉分野の教育機関における音楽（音楽療法）の授業	2009年4月～2011年9月	介護福祉の現場に関連する音楽療法の理論・実践の基礎学習と、学生の馴染みのある音楽や学習素材を活用し、学生自らが生活にどの様に音楽を取り入れているかを認識したり、音楽による心理的变化を体験できるような教材を使用した。また、臨床場面で好まれる音楽を用いてグループ別に発表を行うなどの実践的な学習を導入した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本音楽療法学会認定療法士	2011年3月31日	
2. 高等学校教諭1種免許状（音楽）	2010年4月3日	
3. 中学校教諭1種免許状（音楽）	2010年4月3日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学音楽療法研究室における音楽療法の臨床研究	2012年5月より現在	心身の発達に心配のある児童への音楽療法に携わっている。 メイン・セラピストとして7例、コ・セラピストとして7例のケースに関わり、研究室メンバーとの共同で、対象児個々のニーズに合わせた素材の開発（楽器・楽曲・視覚支援等）と臨床評価システムの構築に関する基礎研究を行っている。
2. 幼児教育機関での音楽療法	2009年5月～2010年8月	自閉症傾向で言葉の発達に心配のある幼児を対象とした音楽療法を行った。音楽療法の介入後、言葉の発達の問題が解消され園内での対人交流が良好となった。
3. 音楽教室での音楽療法と音楽療法の要素を取り入れたレッスン	2009年10月～2013年3月	不登校や様々な悩みのある対象、ダウン症、自閉症等の障がいのある児童、自閉性傾向・コミュニケーションに

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4. 成人障がい者・高齢者施設での音楽療法・演奏	2008年4月～2009年3月	困難のある児童を対象とした音楽療法と、個々の発達や心理的状況に応じたピアノ・声楽のレッスンを行っていた。
5. 同志社大学 RA (Research Assistant)	2008年4月～2009年3月	メイン・セラピスト、コ・セラピストとしての音楽療法・施設行事での演奏、セラピーライブ、ロビー演奏等の奉仕活動を行っていた。
6. 同志社大学 TA (Teaching Assistant)	2007年4月～2008年7月	生体情報計測(脳波・心電図・呼吸)に関する実験的研究に携わる。 「文化情報学 実験演習Ⅰ・Ⅱ」の授業補助 テキスト解析や統計解析など、コンピューターを使った実践的な授業の補助を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 音楽療法の全人的・統合的な働きとその多様な構成要素の相互関係の研究	単	2013年3月22日	同志社大学文化情報学研究科 博士学位論文	全人的・総合的な働きを前提とする音楽療法の臨床場面には、多様な構成要素の相互関係が含まれる。研究では、音楽を用いた対人援助に関する意図・価値を導くために、経験的研究、前実験的研究、系統的研究、という3つの研究の視点から探究的に調査した試みについて報告した。
3 学術論文				
1. 重度障がい児の音楽療法における表現・コミュニケーション行動の評価・分析事例～前言語・非言語表現と音声表現の時系列関係に着目して～ (査読無)	共	2015年3月17日	日本音響学会, 2015年春季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 1305-1306	竹原直美, 大浦夏光, 松本佳久子, 一ノ瀬智子, 青木智美, 吉里瞳子, 矢野環 相互相関分析を使った重度障がい児の音楽療法中のコミュニケーション行動の時間関係を可視化するための分析を行った。結果では、音声コミュニケーションと、前言語コミュニケーションに時間関係を持つことが示された。
2. 重度障がい児の音楽療法における前言語的な表現・コミュニケーションの評価・分析に関する基礎研究 (査読無)	共	2014年9月5日	日本音響学会, 2014年秋季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 515-516	竹原直美, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 青木智美, 吉里瞳子, 矢野環 重度障がい児の音楽療法場面の音声表現と非言語・前言語コミュニケーション関わる複数の評価同士の時間関係を可視化するために“相互相関分析”を用いた結果を発表した。分析事例では、前言語表現と音声表現が同時に出現し、音楽・身体表現と音声表現の間に長いタイムラグが存在することが示された。
3. IMPORTANT CLINICAL INFORMATION IN MUSIC THERAPY (査読有)	共	2014年7月	MUSIC THERAPY TODAY Summer 2014, Vol.10, No.1, pp. 372-373.	Naomi Takehara, Tamaki Yano, Tsutomu Masuko, Tomoko Ichinose, Kakuko Matsumoto, Tomomi Aoki, Megue Yokoya 日本の音楽療法の報告書に用いられる言葉の共起関係を可視化した”ネットワーク分析”の結果に基づき、音楽療法分野における新たな分類・評価法について考察した。分析結果によると音楽に関する言葉が間主観性・自己・他者間の表現・コミュニケーションに関わる言葉と繋がりが持つことが示された。
4. 障がい児を対象としたコミュニケーション支援・評価 システム構築に関する基礎研究 (査読無)	共	2014年3月10日	日本音響学会, 2013年春季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 1485-1486	竹原直美, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 青木智美, 吉里瞳子 長時間の音楽療法場面の音声映像に、音楽的発達と言語的発達、臨床関係(遊びの関係)や表現・コミュニケーション行動に関わる重要な情報を総合的に記録・評価・分析するための基礎研究の事例について発表した。
5. 可聴域を超えた音を含む高音質音源の心身へ与える影響 (査読無)	共	2013年3月13日	日本音響学会, 2013年春季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 1009-1012	一橋 和義, 坂元 勇仁, 竹原直美, 矢野環, 今泉徳人, 時枝 一博, 永井 伊作, 中澤 慶, 奥原 秀明, 山崎 英樹, 伊藤 祐市, 緒方 理恵, 花房 勤, 酒井 哲哉, 岩本 敏孝, 谷澤 哲, 京増 弘志, 京増 雄介, 坂口 源, 鈴木 政直, 舛川 智子, 小山 茂 可聴域を含む多様な音源の心理評価に関する基礎研究の結果を発表した。
6. 可聴域を超えた音を含む高音質音源の脳活動に与える影響 -光トポグラフィーによる計測の試み- (査読無)	共	2013年3月13日	日本音響学会, 2013年春季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 1013-1014	竹原直美, 一橋 和義, 矢野環, 坂元 勇仁, 今泉徳人, 奥原 秀明, 時枝 一博 可聴音域を超えた音源DVD96kHzと可聴域によるCD44.1kHzの音源2種(音楽: シューマンピアノ五重奏曲・環境音: 海の波の音)の聴き比べを行い、各音源の聴取者に対し、光トポグラフィーによる脳活動の計測を行った結果を報告した。
7. 歌唱中の脳波Fmθと定量神経活動について-個人、小集団における	共	2012年3月31日	文化情報学, 同志社大学文化情報学会, Vol. 7	竹原直美, 長谷川裕紀, 矢野環 音楽療法場面で幅広く用いられている歌唱の様々な

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
認知・情緒・生理的側面の定量的 評価一 (査読有)			(2), pp13-20	形態に着目し、歌唱中の脳波Fmθと自律神経活動の 分析により、音楽演奏中の治療的効果(認知・情緒 ・生理的側面)を統合的・定量的に評価するための 基礎研究を行った。結果より、緩やかなテンポで運 動量の少ない馴染みの曲の歌唱は、歌詞を話すこと ・イメージすることと比較して、心地よい心理状態 、生理的な鎮静化を促すことが示された。
8. 音楽療法の質的事例報告に関する 計量的分析の試み (査読無)	共	2011年5月14 日	情報処理学会, 研究報告 -人文科学とコンピュ ータ(CH), Vol. 2011-CH- 90, No. 4, p1-5	竹原直美, 矢野環 音楽療法士により記述された質的事例報告を対象と し、臨床における多様な相互関係の中から、「セラ ピストはクライエントの何をみてきたか?」という 点を、計量言語学的に明らかにするための基礎研究 の結果を報告した。
9. RLARIONSHIPS BERWEEN FMθ and THE AUTOMOMIC NERVOUS SYSTEM I N SINGING AND SPEAKING (査読 有)	共	2011年	Music Therapy Today s ummer 2011, vol.9, No .1, pp.48-49	Naomi Takehara, Hiroki Hasegawa, Tamaki Yano 言葉を話す時と歌う時の効果の違いについて実験 を行った結果を発表した。結果では、歌唱時は言葉 話す時と比較して、注意集中よりも心理的高揚や生 理的鎮静を促すことと関係することが示唆された。ま た歌唱形態による効果の違いでは、独唱が最も心地 よい状態と関連する結果が示された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 認知症予防のための電子楽器演奏 システムの開発～知的機能刺激に 着目した基礎的検討～	共	2015年9月26 日	第5回日本認知症予防学 会学術集会, 2A-12	赤澤堅造, 益子務, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 竹原 直美, 青木智美, 奥野竜平 認知症予防のための電子楽器を用いた楽器演奏シ ステムとその評価について発表した。
2. 認知症予防を目的とした楽器演奏 の基礎的検討～認知機能刺激の認 知科学的計測法～	共	2015年9月13 日	第15回 日本音楽療法学 会学術大会, p. 79	赤澤堅造, 益子務, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 竹原 直美, 青木智美 電子楽器Cymisの演奏には、どのような認知機能が必 要であるかを調査するために、演奏結果と心理評価 、脳波Fmθ波による評価を行った。
3. 重度心身障害者のための音楽療法 評価手法の構築に向けて～事例に よる予備的考察～	共	2015年9月12 日	第15回 日本音楽療法学 会学術大会, p. 49	林栄理菜, 一ノ瀬智子, 竹原直美, 益子務 重度心身障がい者のための音楽療法の評価について 、既存の指標や新しい評価スケールを作成し、評価 手法の構築・検討を行った。 Audactyによる音声波形表示を用いた音楽演奏場面 の評価が、対象や職員に理解しやすく、対象の活動 への意欲向上につながった過程が示された。また、オ リジナルの評価スケールと生理指標を主成分分析に かけることにより、対象の目標への達成度と生理・ 心理面を、活動ごと回数ごとに比較して変化をみる ことができた。
4. 発達障がいの疑いのある就学前児 への集団音楽療法による社会性促 進～ELANを用いた行動観察による 評価を中心とした事例研究	共	2015年9月12 日	第15回 日本音楽療法学 会学術大会, p. 42	串田加奈, 竹原直美, 青木智美, 松本佳久子 発達障がいの疑いのある児童を対象とした集団音楽 療法場面の遊び行動の変化と言語・コミュニケーション 行動について、2事例の観察評価を行った。結果 では、音楽療法場面において、他者との関わりを 必要とする連合遊び・協同遊び行動が増えたことに 伴い、対物・対大人への視覚注意によるコミュニケ ーション行動が増加したことが示された。
5. “大切な音楽”によって 示され るものと 語られるもの～少年受 刑者へのグループカウンセリング における語りのコンテキストの 分析～	共	2015年11月2 8日	第47回日本芸術療法学 会, p. 25	松本佳久子, 竹原直美 少年受刑者への音楽療法の語りにおける文脈の時系 列変化を可視化するための手法として、言語計量分 析を用いた研究手法の検討を行い、事例の考察を行 った。
6. Applying a Novel Electronic Mu sical Instrument and Kinect in Music Therapy for Children wi th Autism Spectrum Disorders A uthors	共	2015年10月	World Congress on Edu cation 2015, p. 90	Tomoko Ichinose, Naomi Takehara, Kakuko Matsumo to, Tomomi Aoki, Toko Yoshizato, Ryuhei Okuno, Shinichi Watabe, Katsumi Sato, Tsutomu Masuko a nd Kenzo Akazawa バリアフリー電子楽器Cymis (サイミズ) とKinectを 使用した、自閉症スペクトル障がい児のための音楽 療法の臨床例を紹介した。
7. 障害児への音楽療法における親の 心理的变化について～母親へのイ ンタビューとアンケート調査の事 例から～	共	2014年9月21 日	第14回 日本音楽療法学 会学術大会, p. 227	寺岡千紘, 吉里瞳子, 竹原直美, 松本佳久子 障がい児の音楽療法場面・生活場面におけるコミュ ニケーション・関わり行動の変化と保護者の心理的 側面の変化について調査した結果を報告した。
8. 電子楽器サイミス演奏時の脳波F mθの計測～認知症予防のための 脳活性化の楽器演奏を目指して～	共	2014年9月21 日	第14回 日本音楽療法学 会学術大会要旨集, p. 1 25	赤澤堅造, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 竹原直美 障害者施設等、国内16の機関で導入されている” 電子楽器サイミス”の生理学的・認知的アプローチ に関する基礎研究について、認知症予防における楽 器演奏の意義と、サイミズの演奏においてFmθが発 現することが確認された結果を報告した。
9. 音楽と映像の相乗効果が気分と印	共	2014年9月21	第14回 日本音楽療法学	松野純男, 向畑美菜, 竹原直美, 松本佳久子, 一ノ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
象に与える影響		日	会学術大会要旨集, p. 2 11	瀬智子, 長谷川裕紀 音楽と映像のずれの影響について発表した。結果では、ダンス経験者において、課題ごとの印象の変化を敏感に認知する傾向を認めた。また、主成分分析を用いることで、この変化が精神的な「緊張」「緩和」に基づくものであることが示された。「緊張」「緩和」の指標として、唾液中s-IgAが有用な生体指標になる可能性が示された。
10. ELANを用いた音楽療法の臨床記録・評価の構築・分析に関する基礎研究Ⅰ～重度障がい児の音声表現・コミュニケーション場面に注目した分析事例～	共	2014年9月20日	第14回 日本音楽療法学会学術大会, p. 109	竹原直美, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 青木智美, 吉里瞳子 音声映像に直接注釈をつけることのできるELANを用いた音楽療法の臨床評価法について紹介した。重度障がい児の音楽療法における対象児・臨床者間の表現・コミュニケーションを可視化・定量化するための評価・分析手法について発表した。
11. ELANを用いた音楽療法の臨床記録・評価の構築・分析に関する基礎研究Ⅱ～広汎性発達障がい児の音楽療法場面における遊びと社会的発達の変化の分析事例～	共	2014年9月20日	第14回 日本音楽療法学会学術大会, p. 110	増田沙耶香, 竹原直美, 青木智美, 松本佳久子 広汎性発達障がい児の音楽療法中の遊びの社会的参加度と表現の主張性・協調性、セラピストの関わり方の変化について音声映像を通じた評価を行った。結果では、遊び行動の変化より、社会性発達の向上が示され、セラピストの関わり方の変化には、対象児童の社会性の発達の変化が反映されていることが示された。
12. IMPORTANT CLINICAL INFORMATION IN MUSIC THERAPY	共	2014年7月8日	World Congress of Music Therapy 2014 Abstracts POSTERS, P0023, July 7-12, 2014, pp359-360.	Naomi Takehara, Tamaki Yano, Tsutomu Masuko, Tomoko Ichinose, Kakuko Matsumoto, Tomomi Aoki, Megue Yokoya 日本の音楽療法の報告書に用いられる言葉の共起関係を可視化した”ネットワーク分析”の結果に基づき、音楽療法分野における新たな分類・評価法について考察した。分析結果によると、音楽に関する言葉が間主観性・自己・他者間の表現・コミュニケーションに関わる言葉と繋がりを持つことが示された。
13. 言葉のつながりから音楽療法の臨床を理解する～2001年～2010年の児童領域における質的事例報告の計量分析を通じて～	共	2013年9月7日	第13回 日本音楽療法学会学術大会要旨集, p. 91	竹原直美, 青木智美, 横家愛恵, 一ノ瀬智子, 松本佳久子 ネットワーク分析により、過去の児童領域の報告書に用いられる言葉と言葉の関係(つながり)に注目しながら、児童領域の臨床場面における多様な臨床情報の関係性について発表した。
14. 音楽療法の報告書に関する計量分析の試み～児童領域の臨床研究に必要な情報を探る～	共	2012年9月9日	第12回 日本音楽療法学会学術大会, p. 80	竹原直美, 青木智美, 一ノ瀬智子, 松本佳久子, 横家愛恵 音楽療法士の観点を計量言語的に明らかにするための基礎研究として2001～2005年度の日本音楽療法学会学術大会要旨集より、児童領域の事例報告文書の関連用語分析を行い、その結果を報告した。
15. 音楽療法の質的事例報告に関する計量分析の試み～歌唱とこころ・からだ・社会に着目して～	共	2011年9月10日	第11回 日本音楽療法学会学術大会要旨集, p. 74	竹原直美, 一ノ瀬智子, 松本佳久子 音楽療法の多量の事例報告を計量的に分析する試みを行い、歌唱と関連がみられる言葉の抽出結果と、大会のテーマであった、こころ・からだ・社会に注目した分析結果を発表した。
16. Relationships between Fmθ and the autonomic nervous system in singing and speaking	共	2011年7月	The 13th WFMT World Congress of Music Therapy	Naomi Takehara, Hiroki Hasegawa, Tamaki Yano 言葉話す時と歌う時の効果の違いについて実験を行った結果を発表した。結果では、歌唱時は言葉話す時と比較して、注意集中よりも心理的高揚や生理的鎮静を促すことと関係することが示唆された。また歌唱形態による効果の違いでは、独唱が最も心地よい状態と関連する結果が示された。
17. 歌唱活動が注意集中・情緒に与える影響について～歌唱中の脳波Fmθと自律神経活動に関する基礎研究～	共	2010年9月25日	第10回日本音楽療法学会学術大会要旨集, p. 65	竹原直美, 長谷川裕紀 歌唱の効果を計測・分析するための基礎研究について、少数データにより個々の実験事例の課題に対するFmθ power・自律神経系活動の評価と、ウェーブレット解析による脳波の時系列分析の結果について発表した。
18. 音楽を聴いているときの心と身体の関係性について～脳波・心電図・呼吸の生体情報を用いて～	共	2009年9月12日	第9回日本音楽療法学会学術大会要旨集, p. 46	竹原直美, 長谷川裕紀 音楽聴取における多面的感情・音楽の印象評価、生体情報(脳波・呼吸・心電図)の関係について、系統学的研究手法を用いて分析を行った結果を発表した。
19. 音楽聴取における主観評価と生体情報の関係について	単	2008年8月31日	第8回日本音楽療法学会学術大会要旨集, p. 183	竹原直美 音楽聴取における多面的感情の評価・音楽の印象評価、生体情報(脳波・呼吸・心電図)の関係についての基礎実験を行い、少数データによる主成分分析の結果を発表した。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 重度障がい児の音楽療法場面（発声・楽器活動）におけるコミュニケーション行動の評価・分析	共	2015年11月2日	第28回音楽の科学研究会	大浦夏光, 竹原直美, 松本佳久子, 一ノ瀬智子, 青木智美, 吉里瞳子 重度障がい時の音楽療法中の音声コミュニケーションの表現時間と表現パターンの時系列変化を注釈ソフトELANを使って評価した事例について報告した。
2. 障がい児を対象とした音楽療法の臨床評価システム構築に関する基礎研究～ELANを用いた音声・映像記録の評価と分析～	共	2014年6月22日	第26回音楽の科学研究会	竹原直美, 増田沙耶香, 松本佳久子, 一ノ瀬智子, 青木智美, 吉里瞳子, 矢野環 映像音声の蓄積・分析を通じた新たな音楽療法の評価・分析事例を紹介した。
3. 子どもに対する歌いかけと母親の育児自己効力感・気分状態との関連	共	2014年6月22日	第26回音楽の科学研究会	諸岡由依, 竹原直美, 青木智美, 小花和 Wright 尚子 母から子への歌いかけによる効果やその要因についての調査・実験研究の結果を発表した。歌いかけ頻度よりも、母親による歌いかけ頻度の認識が育児自己効力感に影響し、遊び場面での歌いかけが、歌いかけを行っている実感を母親に与えることや、母親の歌いかけによって、子どもが「母親の顔をじっとみる」反応が、育児自己効力感に関連することが示された。
4. プロ野球の応援歌が及ぼす生理的・心理的影響	共	2014年6月22日	第26回音楽の科学研究会	岩本 まみ, 松野純男, 長谷川裕紀, 竹原直美, 青木智美, 吉里瞳子, 松本佳久子, 一ノ瀬智子 野球ファン・性別の属性間で応援歌への生理・心理反応の違いについて調査したところ、阪神ファン女性に楽曲間での心理反応の違いがみられた結果を発表した。
5. 音楽療法の実践と教育におけるテクノロジー活用—2000年以降の文献レビューを中心に—（査読有り）	共	2014年3月	音楽教育実践ジャーナル, Vol. 11, No. 2, p. 60-65. 日本音楽教育学会	一ノ瀬智子, 竹原直美, 松本佳久子, 渡部信一 音楽療法の領域におけるテクノロジー活用の状況、テクノロジー活用に対する音楽療法士の意識、ならびに養成教育におけるテクノロジー活用の観点から、音楽療法の実践と教育におけるテクノロジー活用に関する文献レビューの結果を報告した。
6. 音楽療法の臨床研究における重要な情報とは？～2001年から2010年の日本の音楽療法の報告書にみられる言葉の特徴から～	共	2013年6月9日	第24回音楽の科学研究会	竹原直美, 矢野環, 青木智美, 横家愛恵, 松本佳久子, 一ノ瀬智子 音楽療法の実践に関わる人がどのような考え・視点を持って対象者に働きかけてきたのかという点を、過去の音楽療法に関わる多量の報告書を計量的に分析することにより、全人的な音楽療法の概念を系統的に把握することを目的とした研究を行った結果を報告した。
7. 音楽療法の報告書に関する計量分析の試み—臨床研究に用いられる言葉の特徴から音楽療法の科学的視点を探る—	単	2012年2月26日	第20回音楽の科学研究会	竹原直美 音楽療法の質的研究と量的研究での言葉の用いられ方の違いについて、報告書の文章を計量的に分析した結果を発表した。音楽療法の科学的・感性的な研究法の齟齬の問題に触れ、今後必要とされる音楽療法分野の臨床研究の視点について述べた。
8. 歌唱活動が注意集中・情緒に与える影響について ～歌唱中の脳波Fmθと自律神経活動に関する基礎研究～	共	2011年2月27日	第18回音楽の科学研究会	竹原直美, 長谷川裕紀, 矢野環 能動的な音楽療法の効果測定のために脳波Fmθと自律神経活動の計測を行なった実験結果を発表した。また、多様な量的指標と質的指標を統合的に分析可能な手法であるMFA分析について紹介した。
9. 音楽療法のエスノグラフィ的な臨床研究 ～質的研究からみえてくる科学的視点～	単	2011年10月19日	第9回同志社大学文化情報学研究科研究発表	竹原直美 コミュニケーションに困難のある対象者2事例のエスノグラフィ的な臨床研究の経過より、言葉の発達に心配のある幼児・児童の音楽療法の記述評価において重要な視点を、質的研究の観点から考察した内容を発表した。
10. 音楽を聴くことによる心と身体への影響—心拍, 脳波, 呼吸の観点から—	単	2009年3月14日	第11回音楽の科学研究会	竹原直美 音楽聴取における心理評価と生体情報の関係について、系統的分析を行った修士論文の結果を発表した。
6. 研究費の取得状況				
1. 基盤研究(C) 分担	共	2015年から現在		発達障害におけるコミュニケーションの文脈に視点を置いた音楽療法プログラムの構造化
2. 基盤研究(C) 分担	共	2014年から現在		発達障害児への音楽療法におけるICT（情報通信技術）を活用した楽曲演奏
3. 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究活動スタート支援	単	2013年から2014年		音楽療法場面の映像記録の時系列分析を通じた対象児・臨床者間の相互作用と自我形成

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本音楽療法学会 日本音響学会

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
	日本芸術療法学会